

要 望 書

京成高砂駅は、京成本線・京成金町線・北総線の鉄道三線が利用できる利便性の高い駅であり、高砂駅周辺地区は、駅を中心に四つの商店街が集まるなど魅力にあふれ、暮らしやすい地区です。その一方で、駅付近にはピーク時の遮断時間が現状一時間のうち五十分以上にも達する「開かずの踏切」をはじめとする踏切が多数存在し、歩行者の安全性や利便性はもとより、市街地の分断、道路等の都市基盤整備の遅れ、駅前の商業の衰退など、この地域の魅力低下の一因となっております。

そうした中、東京都では平成二十年六月に、京成本線京成高砂駅から江戸川駅付近を連続立体交差事業の事業候補区間に位置付け、現在、鉄道立体化の可能性について調査検討を進めており、その実現に向けて地域住民の期待も高まっております。

また、高砂駅周辺地区では、京成高砂駅付近の五つの自治町会及び四つの商店会によって平成十四年度に高砂地区開発協議会が結成され、平成十七年度から鉄道立体化を見据えた高砂駅周辺地区のまちづくりの検討を進めてまいりました。平成三十九年度には、「駅周辺地区まちづくり検討会」を立ち上げ、駅前広場整備と駅前の魅力あるまちづくりの実現に向けた意見交換を進め、令和三年七月に「高砂駅前まちづくり構想」をとりまとめました。

葛飾区では、令和二年八月に「高砂駅周辺地区まちづくりガイドプラン」を策定し、連続立体交差事業・鉄道車庫の移転・都営高砂団地の建て替え等を見据えた、高砂駅周辺地区のまちづくりを地域住民と協働により進めております。

高砂駅周辺地区のまちづくりの目標である「魅力と活力にあふれ安全で快適な広域生活拠点」の形成のためには、鉄道立体化が不可欠であり、是非とも本要望にご理解いただき、地域住民の悲願である鉄道立体化の事業化に向けた取り組みを着実に推進していただきますよう、次の事項を要望いたします。

記

- 一 京成本線京成高砂駅から江戸川駅付近の連続立体交差事業の早期事業化を図ること
- 一 鉄道立体化に合わせた高砂駅周辺地区のまちづくりの実現に必要な支援を講じること

令和三年十月十二日

葛飾区長

青木 克徳

高砂地区開発協議会 会長

関根 芳夫

東京都知事 小池 百合子 殿